



吉子川



令和7年9月2日(火)
 学校だよりNO.31
 中島村立吉子川小学校
 発行責任者 校長 木戸美智子

【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

【よしコッピ】

吉子川小学校
 のあやめの花に
 住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの
 十か条 (9月)

いつも気をつけている言葉づかい
 自分も大事、相手も大事

◇ ご参加くださった皆さんありがとうございます！ ◇

8月31日(日)の「第2回環境整備」には早朝より多くの皆様にお集まりいただき、校庭及び校舎周辺の環境整備活動を行っていただきました。6:00のスタート時から、親子でコミュニケーションをとりながら和やかな雰囲気の中で校庭の除草をしていただきました。今回は、草刈り機持参の方が多く、フェンス周りや学校園周辺は、見違えるようにすっきりしました。しかし、今回は参加者が少なく、校庭のトラックには、かなり雑草が残っています。次年度は、もう少し多くの皆様にご協力いただけますと幸いです。

親子でご参加してくださった皆様、子どもたちのために、学校のみならずのために…という想いでご参加いただけたこと、そして作業しながら多くの皆様が親睦を図られていたことがうれしいです。感謝申し上げます。

ボランティア活動に参加することは、人のために働くことのすばらしさ等の奉仕の心を育みます。さらに親子の絆を深める貴重な機会になるなど、教育効果は高いと思います。また、学校への感謝の気持ちや愛校心を育み、よいと思うことを進んで行動に移すといった自主性の伸長にもつながると思います。ぜひ、次年度の環境整備も親子でご参加ください。ご協力をよろしく願いたします。



子どもたちに力を付ける！ チーム吉子川！ 最強チーム！

夏休み、先生方は研修会に参加しました。8月29日(金)の放課後は、研修主任である古山智子先生を中心に校内で勉強会を開きました。「言語力」が本校の子どもたちの課題です。その克服に向けてどうすべきかを検討しました。一人一人の子どもを取りこぼすことなく、全校生を全職員で育てていきます。「言語力」の育成にご協力ください！裏面にはその課題に係る校長講話(放送文)を載せました。



9/1 あやめタイムⅠ（校長講話）

放送でのお話になります。校長先生がみなさんに伝えたいことは、たった一つです。そのたった一つのお話のゴールに向かって、いろいろな例を出しながらお話しします。みなさんは、どのタイミングで気付くでしょうか。今日は顔が見えません。スライドの画面もありません。校長先生の言葉を聞いたとき、自分はどう思うのかと、考えを比べながら聞いていると、校長先生が伝えたいことに気付きやすくなるはず。耳・心を使ってしっかり頭を働かせて聞いてください。

さて、今日のお話です。1人で買い物に出かけた時のことです。あるコンビニに入ると、1人のアルバイトらしい若い店員さんがいました。買いたい物をカウンターに置いた時、代金を支払った時、レシートを受け取った時、店を出る時、店員さんはほとんど何も言いませんでした。そういえば、店に入った時も「いらっしゃいませ」という言葉がなかったことも思い出しました。「コンビニは便利を売る店だから、欲しい物が買えただけで十分ではないか」と、校長先生は思おうとしましたが、何だかモヤモヤ……。モヤモヤした気持ちのまま、次に行きつけのガソリンスタンドに行きました。そのガソリンスタンドは、機械にカードと代金を入れて自分で給油するセルフサービスの店です。店員さんはいるのですが、接客はしていません。「何かおかしい。人がいるのに言葉がない」と校長先生は思いました。

セルフサービスが生まれたのはアメリカです。アメリカはいろいろな国の人がいていろいろな国の言葉を使うから、会話の不要なセルフサービスが広まったと聞いたことがあります。日本でもセルフサービスは普及していますが、その理由は、アメリカのような言葉の問題ではなく、おそらく人件費という経営上の問題が理由ではないかと思います。もしかすると、「煩わしさを避けたい」という現代人の意識もその理由なのかも知れません。

セルフサービスは、コンビニやガソリンスタンドではありません。電車の切符、食堂の食券、銀行のATM、スーパーマーケットなど、どうやら私たちは、人と関わりを持たなくてもそれほど不都合なく生活ができる社会に生きているようです。これは、ある意味では技術の発達による社会の進歩なのかもしれませんが、「人がいるのに話さない、話さなくても不都合がない」という状況は、本当に良いことなのかどうか、校長先生は疑問です。みなさんはどう思いますか。

まだ、話は半分です。ここまで校長先生が皆さんに伝えたいこと、言いたいことに気付いた人はいるかな？それでは話を続けませぬ。

ところで、みなさんは、「誰のために、何のために挨拶をするのか」と考えたことがありますか？相手に対して親しみや尊敬の気持ちを表すためかな？朝、校門や昇降口で挨拶するのは誰のため？校長先生のため？教室に入るときに挨拶するのは担任の先生のため？挨拶しないと注意されるから、しかられるから、そうならないようにするため？このように「相手のための挨拶」としか考えないと、例えば「返事のない相手には、次から挨拶しないでおこう」という残念な考え方をしてしまいがちです。

校長先生は、挨拶とは「相手に自分の心を開くこと」ではないか。自分は心を開いたということを相手に知らせるために挨拶をするのだと考えています。心を開かないと言葉は出てきません。相手が誰であろうと、返事の有無など関係なく、先ず自分の方から心を開き、相手に言葉をかける。そうすると、相手も心を開いて言葉や笑顔が返ってくる。それが挨拶というものだと思うのです。大人になって社会人となり、働くようになれば、自分の心を開けなければうまく働くことはできません。相手と心を通わせなければ働き続けること、仲間とよりよい関係をつくることはできません。働くということは、人の役に立つことだからです。だから、先生方は、皆さんに根気強く、挨拶するように声をかけているのです。一人前の人間に、社会人に育てたくて、挨拶の習慣を身に付けさせようとしているのです。挨拶をすると、相手も自分も爽やかな気分になります。心がやわらかくなり、顔の表情もやわらかくなり、笑顔になります。背筋も伸びて元気になります。このように、言葉には「力」があるのです。

そろそろ、校長先生が今日の話でみなさんに伝えたいこと、分かってきたかな？校長先生の考えについて、みなさんはどう考えますか？比べてみましょう。実は、もう少し続きがあります。聞いてください。

次に、言葉にはこんな「力」があるという別の事例を紹介します。オリンピックで金メダルを取ったある水泳選手のコーチを務めた方が、こんなことを言っています。「スポーツ選手は基礎を習得し、ある程度のレベルまで達すると、自分には何が足りないか、それを鍛えるためにどのような練習をすればよいか、自分で考えなければならない時期が来る。この時、言葉で自分を表現できない選手は伸びない。強くならない。言葉のトレーニングを重ねることで、最終的にはコーチの要らない選手を育てたい。一流のスポーツ選手には、運動能力に加えて『言語力』という言葉の力が必要です。」

校長先生も全く同じ考えです。みなさんに、「自分から進んで学習できる自立した学習者」になってほしいと強く願っています。そのためには、「言語力」が必要です。「言語力」は、人が人として成長する中で経験するたくさんの方のことを、言葉でまとめることを通して、少しずつ向上していくものです。みなさんは、自分の「夢」を自分の言葉でくわしく表せますか？その「夢」を実現するために何をするのか、自分の「挑戦」を言葉で具体的に語れますか？そして、5年後、10年後の自分の将来を自分の言葉で描けますか？これらを考え抜き、自分の言葉で納得のいく表現ができた時、自分の学習や生活に「自分から進んで行かう力、推進力」がついてきます。

自分の考えを正確に表現できる「言語力」、微妙な違いや複雑なことを相手に伝えることができる「言語力」を高めてください。正しい言葉をたくさん獲得し、その言葉で考え、判断し、納得いくまで表現してください。国語だけ頑張ってもダメです。各教科の授業や様々な学習活動、運動、そして読書を通じて、正しく自由に言葉を使いこなせる人になってください。

校長先生が今日みなさんに伝えたいことは、「言葉のもつ力」とその大切さ、重要性です。「なりたい自分」に近づくため、授業に集中しましょう。自分の思いを言葉にしましょう。もっともっと声に出してほしいです。そして、言葉にできる幸せに気付いてほしいです。言葉に感謝しながら、毎日を過ごしましょう。これで校長先生の話が終わります。